

9月21日は世界アルツハイマーデー！ 認知症サポーターがまちの安心を築きます。

杉並区では、認知症高齢者を地域全体で見守り、支援できるよう認知症サポーターの養成を行っています。区は、認知症高齢者一人に複数のサポーターの養成をめざして、現在、認知症高齢者一人に、一人のサポーター養成の達成が間近です。

1994年に、国際アルツハイマー病協会が、認知症への理解と本人や家族への施策の充実を目的に、世界アルツハイマーデーを制定しました。アルツハイマー病は、脳の委縮によって、認知障害を引き起こすもので、中高年以降に発症しやすく、若い人ほど進行が早い傾向があります。発症の初期では、物忘れや意思の疎通ができないなどの症状が現れ、中期では個性の喪失と記憶障害の進行、そして、末期には日常生活にも支障がでるようになり、配偶者や家族を認識することも難しくなります。

杉並区の65歳以上の高齢者人口は、平成26年4月1日現在で、112,863人。総人口545,210人の20.7%を占めます。その高齢者の中で、約1割の11,270人が認知症の高齢者と推計しています。また、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加しており、地域で認知症高齢者を支える必要性が増しています。

杉並区の認知症サポーター養成状況

そこで、杉並区では地域で認知症高齢者を支えることができるよう認知症サポーターの養成に取り組んでいます。平成19年度から養成講座を開催し、26年8月末までに401回に上り、サポーターはまもなく1万人となります。子どもも含めた全世代で認知症高齢者を支えることができるように、小学校・中学校で講座を開いたり、高齢者と接する機会が多い、公共交通機関や金融機関、コンビニエンスストアなどの事業者など幅広く養成し、認知症一人に複数のサポーターを目標に取り組んでいます。

年度	養成講座 実施回数	養成数
19年度	2回	42人
20年度	32回	704人
21年度	67回	1,610人
22年度	43回	1,127人
23年度	32回	931人
24年度	54回	1,816人
25年度	95回	2,106人
26年度	76回	1,396人
合計	401回	9,732人

地域の人誰もが、認知症についての正しい知識を持ち、認知症の方や家族を温かく見守る応援者として、たとえ、認知症になったとしても安心して、自分らしく暮らせるまちを築いていきます。

【報道機関 問い合わせ先】

保健福祉部地域包括ケア推進担当 TEL：03-3312-2111 内線 3271
総務部広報課 TEL：03-3312-2111 内線 1502